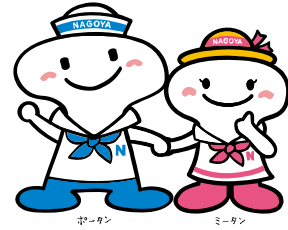


環境にやさしい
名古屋港



生物多様性への配慮と環境負荷の軽減



基本方針 ～良好な港湾環境の形成に向けて～

港湾環境の維持・回復・創造

周辺地域や海域への環境にも配慮し、身近で親しまれる港湾環境の創出とともに、貴重な自然環境の保全、生物多様性への配慮、水環境の改善により、港湾環境の維持・回復・創造を図っていく。

港湾における環境負荷の軽減

大気環境対策や地球温暖化対策を推進するほか、資源循環に取り組み、港湾における環境負荷の軽減を図る。



生物多様性に配慮した緑地
弥富ふ頭緑地（計画イメージ）

生物多様性への配慮

生物のための緑地へ

海から緑地までをゆるやかにつなぐ移行帯（エコトーン）で結び、うみとみどりが一体となった多様な環境をつくります。

多様な生物の生息場が創出されるとともに、環境学習の場としても利用できます。



自然本来の浄化機能

多様な生物がすむ干潟や海浜では、貝などの生物が水中のプランクトンを餌として取り込むことで、海水を浄化してくれます。

名古屋港は、生物が生息できる海浜や環境配慮型護岸の整備を進め、自然が本来有する海の浄化機能の回復を促していきます。



用語の解説

- エコトーン : 様々な生物がすめるように、海と陸など異なる環境がゆるやかにつながる場所。
- ギャップ : 樹林の中にも日光が届くように植栽を控えた場所。
- プランクトン : 水の汚れにより増殖する海や川にいる微生物。魚や貝などの食べ物。
- 赤潮 : プランクトンが大量に繁殖し、水面が変色する現象。

多様な生物が暮らす名古屋港



みどり

緑のネットワーク
緑地を適切に配置することによって緑の連続した空間（緑のネットワーク）を形成し、生物を周辺から誘引し、生物多様性に配慮した空間を創出します。

うみ

現存する干潟

ラムサール条約登録湿地である藤前干潟を「自然的環境を保全する区域」とするなど、現存する貴重な自然環境を健全な状態で次世代へ継承していきます。



うみ

みどり

弥富ふ頭緑地（計画イメージ）



うみ

みどり

海浜の整備

新舞子マリンパークは人工海浜と森が整備され、多くの人々で賑わう緑地ですが、生物にとっても重要な場所です。



2002年にはアカウミガメが上陸・産卵し、その卵を名古屋港水族館でふ化して、この海浜より放流しました。南側には2015年1月に魚つり施設がオープンしました。



アカウミガメの放流

みどり

緩衝緑地

企業の緑地と連携した帯状に広がる緑地は豊かな森となっており、大気環境の保全とともに、タヌキなどの生物の生息場になっています。



名古屋港にすむたくさんの生物

これまでに植えてきた木々は、豊かな森に成長し、今では多くの生物が生息しています。



アオスジアゲハ（新宝緑地）



キジ（楠緑地）

港内では貝やカニ、魚など多くの生物を見ることができます。



インガニ



アサリ

うみ

環境配慮型護岸

石積の隙間などに生物がすみやすいように配慮した護岸（主な整備場所：ガーデンふ頭西側護岸）



みどり

空見ふ頭緑地（計画イメージ）

多くの野鳥が集まる藤前干潟を望み、草地を中心に森や湿地など多様な空間は昆虫や野鳥など多くの生物が生息する場所になります。



凡例	港湾緑地	企業緑地・その他	海浜
	緑地計画	生物の誘引	海浜計画



環境負荷の軽減

環境配慮型施設の導入

太陽光など再生可能エネルギーの導入に努めています。

また、道路照明のLED化や荷役機械の電動化など今後の技術革新の動向を踏まえ、環境配慮型の施設の導入に努めています。



LED照明灯 (潮風橋)



太陽光発電 (ソーラーパーク新舞子)

その他の環境負荷軽減施策

- ・ 温室効果ガス排出量ゼロとなる再生可能エネルギー100%電気の調達
- ・ 効率的な物流体系の構築により大気環境への負荷軽減
- ・ 循環型社会に対応した港湾空間の形成
- ・ 公共工事におけるリサイクル資材の積極的活用
- ・ 浚渫土砂の海域環境修復への利用等を検討 など

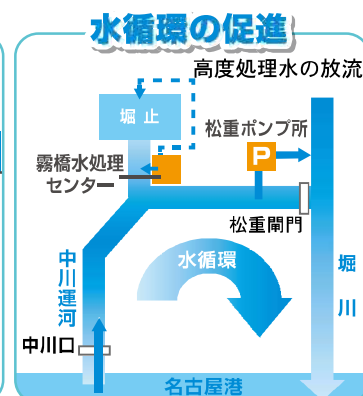
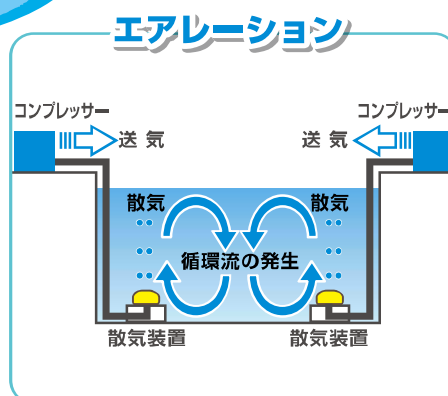
多様な主体との連携

関係行政機関と連携しながら、良好な港湾環境を形成し、清掃活動、環境啓発など、地域と一体となって環境改善に取り組めます。

中川運河の水質改善

現在、中川口においては、底層に空気を送るエアレーションを行っています。

また霧橋水処理センターからの高度処理水を堀止等から放流するとともに、中川口から海水を取水し松重ポンプ所から放流する水循環を行い、水質改善に努めています。



名古屋港の海をきれいに

川から汚れがやってくる

名古屋港は、伊勢湾の一番奥にあり、私たちの生活や産業活動による排水が流れ込んできています。また、名古屋港の海の出入り口が狭いので、汚れがたまりやすくなっています。

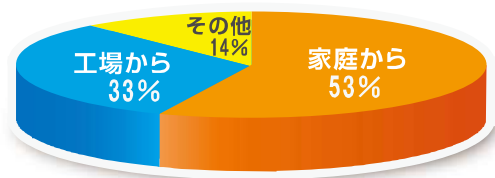


私たちの努力で海をきれいに

近年、工場などの排水に対する規制が強化されており、家庭からの生活排水が海の汚れの大きな原因となっています。

そのため、名古屋港をきれいにするには、私たちの一人一人の努力が必要です。

■ 発生源別にみた汚れの割合(愛知県の海域)
出典:愛知県環境局HPより作成



海をきれいにするためにできることは?

食器についた油などは
ふき取りましょう。



食べ物の残りは水と一緒に
流さないようにしましょう。

洗剤、シャンプーなどは
適量を使いましょう。



名古屋港管理組合 企画調整室 環境担当

〒455-0033名古屋市港区港町1番11号

電話 (052)654-7856 (ダイヤルイン) FAX (052)654-7997

令和6年9月作成

○この印刷物は、国等による環境物品等の調達の推進等に関する法律(グリーン購入法)に基づく基本方針の判断の基準を満たす紙を使用しています。
○リサイクル適正の表示 この印刷物は、Aランクの資材のみを使用しており、印刷用の紙にリサイクルできます。